

研究・調査報告書

報告書番号	担当
8 8	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Smoking, hypertension, alcohol consumption, and risk of abdominal aortic aneurysm in men. 男性における、喫煙、高血圧、飲酒と腹部大動脈瘤の危険性について	
執筆者	
Wong DR, Willett WC, Rimm EB.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2007 Apr 1;165(7):838-45.	
キーワード	
アルコール飲料、大動脈、大動脈瘤、エタノール、危険因子、喫煙	
要 旨	
背景： 中等量の飲酒は虚血性心疾患に対しては予防的な作用があることはよく知られているが、腹部大動脈瘤に対して、飲酒がどのような効果を持つかはほとんど知られていない。	
方法： 1986-2002 年の間、アメリカ人男性 39,352 人を対象にコホート研究を実施し、2 年に 1 回データを取った。そのデータのうち、ベースライン時のデータと 4 年毎の飲酒量のデータを使用して、腹部大動脈瘤の発症と 1 日の飲酒量 (g/日) の関連を解析した。一般的な心血管疾患の危険因子を調整因子とした。	
結果： 576,374 人年の観察期間で、376 例の腹部大動脈瘤症例が新規発症した。喫煙、高血圧、BMI を含むほかの腹部大動脈瘤の危険因子を調整しても、ベースライン時の飲酒量は腹部大動脈瘤と独立して関連があった (トレンド P=0.03)。最大の調整ハザード比は飲酒量が 30g/日以上 (だいたい平均 2 ドリンク以上) の 1.21 (95%信頼区間 0.78-1.87) であった。この関連は、ベースラインの飲酒量だけではなく 4 年毎の飲酒量を勘案すると、より強くなった (トレンド P=0.02)。飲酒量の一番多い群 (30g/日以上) の調整ハザード比は 1.65 (95%信頼区間 1.03-2.64) であった。 アルコール飲料別の解析では、症例数が少ないという制限があったが、蒸留酒が腹部大動脈瘤にもっとも強く関連することが示された。	